

最後に本書の出版に際し、私の作品に興味を持たれた株式会社アスキーの編集スタッフの加藤貞顕氏には、企画面でいろいろ尽力してもらい、本書のタイトルおよびデザインなどの面で貴重なアドバイスをいくつもいただいた。また、日本アイアール株式会社の桑田健氏は、編集面で私が今まで知る中で3本の指に入るすぐれた力を発揮して誠心誠意努力し、筆者の日本語の表現を読みやすいようにいろいろ提案をしていただいた。本書がベストセラーになるとすれば、両氏の力に負うところが大きい。ここで心より感謝の意を表したい。

2005年8月1日

市橋敬三

## 最も効果的な暗記の仕方

①各英文を最低80回は音読すること。100～130回できるとさらに望ましい。算数の「九九」も最低100回読むようにと小学校の先生が言っている。英語は外国語である。この努力をしなければ大きな進歩もないし、自信もつかないことを断言する。英会話は英文法を忘れることから始まるという宣伝文句に踊らされないよう注意されたい。

②大声で暗記することを勧める。黙読はマイナスではないが効果はあまりない。それは次の理由からである。黙読は目と頭しか使わない。音読は目、頭、声、口、耳の5つを使うことになるので、80回読むと一生忘れないことにつながる。

③1日のノルマを果たした後、日本語の部分を見たときたん英語が出てくるかどうかチェックすること。この際、80回読み終えた文のみチェックすること。30回くらい読み終えてもチェックしてはいけない。筆者がこれまでに教えた経験では、チェックしたときすぐに口をついて出てこないとき焦りだし、自信を失い、暗記する意欲がなくなるからである。なお、本書には青のチェックシートがついているので、暗記やチェックの際の手助けとして活用してほしい。

④CDの利用を強く勧める。英会話は2つの要素で成立する。話すことと聞くことである。本書の例文を暗記することにより、話す能力は十分つく。聞く力をつけるためには、本書の例文を全部収録したCDを利用することを強く勧める。それは次の利点があるからである。

(A) リスニングの練習に大いに効果がある。本書では会話で話されるそのままの姿で1つ1つの例文を書いてある。したがって、次のようにbe動詞などは他書に見られないくらい省略形を使っている。

〈例〉Tokyo is ... → Tokyo's ...